

「学会の在り方」について

原野秀永・司馬正次・横山勝義

去る6月31日、北海道で春季発表会が開催されたが、その席上、首題のペーパー・フェアを開き、熱心な会員の参加を得て、活発な討論がかわされた。その報告を、その時に実施したアンケートの結果とあわせて、以下に記述する。議論を引き出すために用意した資料は、アブストラクトに掲載したが、かいつまんで言うと、最近の日本経済は幾多の難問題をかかえ、ORを一番必要とする時代になったにもかかわらず、OR自身が理論に走りすぎ応用への努力を欠いたため、せっかくのチャンスにニーズに対応できず、はなはだ残念であるとは、衆目の見るところである。

また現在日本工学会傘下の学会の中で、最大は機械学会の38,000人、最小がわがOR学会の2,000人。(会費

9,000円は最高である。)

こういった内外の状態を考察すると、従来ともすれば学会の運営が、過去の惰性に流れて、会員のための学会であることを忘却していたことを、この辺で反省してみる必要があろう、というものであった。

	学界	企業
理論	●	●
応用	-	●

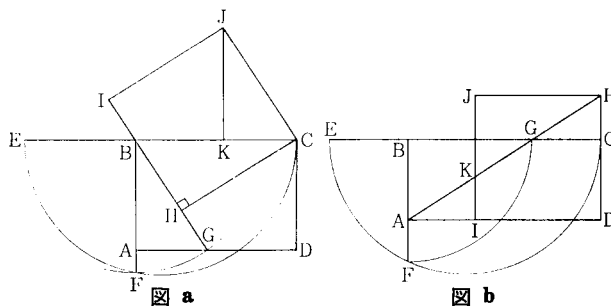
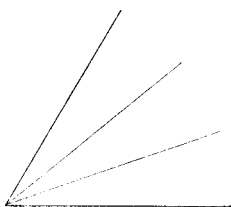
原野他2人が、ペーパー・フェアにのぞむ以前に、討議した結論は、あとに出てくる8つの設問によるアンケートを試みようとする事と上図のマトリックスを考えたこととである。図の丸の大きさは、OR活動の現状をあらわし、学問的な理論は大いに進められたが、応用の面が立ち遅れていることを示す。企業サイドでも、研究所等で行なわれた理論的な活動が多く、ORの最終目標ともいべき「実施化」については、まだまだ不満足である。理想としては、矢印の示すサイクル——学界での理論が応用面にブレイクダウンされ、それが企業の中にとり入れられ、さらに進んで、そういった実務体験の中から新しい問題が派生してき、逆に学界にフィードバックされ、新しい理論がその中から生まれてくる——が描かれることだと思いが、いまのところそのような気配は微塵もないのが残念である。

ペーパー・フェアの場での討論は、活発かつ相当に激

フォーラム

数理パズルを楽しもう (11)

問題 よく知られているように、定規とコンパスだけで勝手な角を三等分するのは不可能です。ところが、市販の定規には、ふつうセンチやミリの目盛りがついています。そこで、この目盛りつきの定規とコンパスだけを使って、勝手な角を三等分することにしました。何か、うまい方法はあるでしょうか。



て点Gを定め、点Cから線分BGに垂線CHをおろす。

CHを一辺とする正方形CHIJをつくれれば、三角形ABGは三角形KJCに移り、四角形GHCDは四角形BIJKに移る。また図bでは、点Gを辺BC上にBF=BGのように定め、線分AGと線分DCをそれぞれ延長して交点Hを求める。HDを一辺とする正方形HDIJをつくれれば、三角形AKIは三角形GHCに移り、三角形ABGは三角形KJHにずれるようにして移る。

[1] Kraitichik, M., *Mathematical Recreations*; Norton, New York, 1942. (邦訳) 金沢養, 100万人のパズル, 白揚社, 1968. (中村養作)

* 図bの解は東芝の大重啓志氏からも寄せられました。

FORUM

しい意見も飛出したが、そのくわしい内容は割愛して、アンケートの結果を表で見ていただきたい。

アンケートにご協力いただいた会員は総数39名。学会の運営に相当関心のあるベテランの集合と見受けられたので、この結果も、全会員の平均値よりはベテラン側に、いささか偏っているやに思われる。

設問は1から8まで。第7問は、2問をあわせてあるので実際に合計では、9つの質問を行なったこととなる。各質問に対する答のパーセンテージをとっただけでは、皮相的であり過ぎるので、9つの質問を2元配置に組み合わせ表にして表にしたものがつぎの図である。

この表からいろいろのことが推測される。たとえば、ORの応用面への努力が不足であるので、ORは曲り角にきていてと考えている人が大変多い。学会にいるメリットがないと答えた人も、学会費が1万円を越えたら退会するかという質問には大部分が否と答えている。われわれが、勝手な解釈を下してしまうより、会員各位が、各個にこの表を読んでいただくほうが役に立つと思つて、会誌の貴重な誌面を占有した次第である。

大方の意向は、学会を2,000人のまま、同好者の集りとして現状維持をはかるよりは（このままでは会員はふえそうにもないのだが）拡大政策を取るほうがよいという意見のほうが強く、学会活動として、会誌については、編集委員諸公にいろいろお骨折りいただいているものの、より一層読みやすく親しみやすいものにしてほしいという注文がもっとも強いように思われるし、また講演会等に力をいれるべきだというご意見も多いようだ。いまの学会でも会員たるメリットありと認めていただいている向きも半数を占めているのは心強いが、もっと応用面へ力を入れるべきだとのご意見が、その中でも強いように見受けられる。

以上の事柄は、今後の学会運営に反映させるべくさっそく理事会に報告した。会長のご意向は、

“企業が今後、ソフト人口として必要とする人員は少なく見積っても40万人を下るまい。これに応ずるOR学会会員が2,000人とは桁はずれに少ない。自分は、質の向上は、量によって決まる、すなわち大きな量が集まれば、自然に質は向上すると信じている。”

とのことである。

さらに具体的な学会活動の案を、庶務・編集・研究普及などの関係理事が集って、早急に取りまとめ、理事会にはかって、決定実施するよう敝命が下った。会員各位からも、妙案・名案の数々をなるべく具体的に事務局までお寄せいただくことをお願いしてこの報告の結びとする。

(9) ORの応用面の努力の不足?				(8) 不満に思っている学会活動		
	肯 定	否 定	不 明	会 誌	発 表 会	講 演 会
(1) ORにきている? ORは曲り角?	肯 定 ### ###	否 定 ///	不 明 ///	### ///	### /	///
(2) 会費をこえたら退会?	退 会 ///		/	///	/	/
(2) 会費をこえたら退会? (残 留)	残 留 ### ///	/	///	### ///	///	/
(2) 会費をこえたら退会? (不 明)	不 明 ### //	///	///	### ###	/	/
(3) ットありや? (有)	有 ### /	///	###	### ///	###	///
(3) ットありや? (無)	無 ### /	///	/	///	///	/
(3) ットありや? (不 明)	不 明 ### //	/	///	///	///	
(4) 発表が理論に偏っている?	肯 定 ### ###	/	///	### ###	###	///
(4) 発表が理論に偏っている? (否 定)	否 定 ///	///	///	///	###	
(4) 発表が理論に偏っている? (不 明)	不 明 ///		///	///	/	/
(5) 現状維持か? (拡大)	拡 大 ### ///	///	///	### ///	###	///
(5) 現状維持か? (維持)	維 持 ### /		///	###	///	
(5) 現状維持か? (不 明)	不 明 ###	///	///	///	///	/
(6) このままでは増えるか? (肯 定)	肯 定 ///	/	///	///	///	/
(6) このままでは増えるか? (否 定)	否 定 ### ###	///	###	### ///	### /	///
(6) このままでは増えるか? (不 明)	不 明 ///	/		///	/	
(7) 希望する学会活動 (会 誌)	会 誌 ### /	/	///	///	///	/
(7) 希望する学会活動 (発 表 会)	発 表 会 ###	///		###	///	
(7) 希望する学会活動 (講 演 会)	講 演 会 ### ###		///	///	### /	///
(8) 不満に思っている学会活動 (会 誌)	会 誌 ### /	///	///			
(8) 不満に思っている学会活動 (発 表 会)	発 表 会 ### /	///	///			
(8) 不満に思っている学会活動 (講 演 会)	講 演 会 ///					

(7) 希望する学会活動			(6) このままで会員は増えるか?			(5) 学会は拡大か現状維持か?			(4) 発表が理論に偏っている?			(3) 会員たるメリットありや?			(2) 会費が1万円をこえたら?		
会誌	発表会	講演会	肯定	否定	不明	拡大	維持	不明	肯定	否定	不明	有	無	不明	退会	残留	不明
###		###	###	###		###	###		###	###		###	###		###	###	
/	/		/		/		/	/						/		/	
/	/			###	/	###	###					###	/				###

/	/				/		/	/	###				/				
###		###		###		###			###		###	###					
				###	/	###			###			###	/				

###	/	###	###	###	/	###			###			###	/				
				###					###		/		/	/			
			/	###	/	###		/	###		/	###		/			

		###		###		###			###			###					
				###	/	###		/	###		/						
								/			/						

###	###			###			###										
/	/	/		###													

	/																
###		###															
		/															

〔質問内容〕

- 質問1. ORは曲り角にきているという説があります。あなたはそれに賛成ですか。
 質問2. OR学会費が1万円をこえたとき、あなたは退会しますか
 質問3. OR学会に所属していることでメリットを得ていると思っ
 ていますか。

- 質問4. 研究発表会の内容が理論に偏っているとの説がありますが、あなたはどのように思いますか。
 質問5. OR学会の今後の運営を考えると、次のポリシーのいずれをとりますか。
 1.学会の運営基盤を確立するため会員の拡大を第一目標とする。
 2.スケールの拡大よりも専門家集団に徹する。
 3.何ともいえない。

質問6. 自分の周囲を見廻して、OR学会員は、もっと増えてしかるべきだと考えますか。

質問7. 次の学会活動のうちどれが一番重点をおくことを希望しますか、一つだけ選んで下さい。(アンケート結果参照)

(追加質問)一番不満に思っているものを選んで下さい。

質問8. Q.Cと比べてORは現実への応用の努力が不足していると思いますか。
 (注)表の中の合計数字の狂いは、整理の過程で、判断できない票を省いたため生じたものです。

「学会のあり方」アンケート結果

- 質問1. 1肯定 61.5% (24)
 2否定 12.8 (5)
 3不明 25.7 (10)
- 質問2. 1退会 12.8% (5)
 2残留 48.7 (19)
 3不明 38.5 (15)
- 質問3. 1ある 50.0% (19)
 2ない 23.7 (9)
 3不明 26.3 (10)
- 質問4. 1肯定 23.1% (9)
 2否定 69.2 (27)
 3不明 7.7 (3)
- 質問5. 1拡大 50.0% (19)
 2維持 26.3 (10)
 3不明 23.7 (9)
- 質問6. 1肯定 23.1% (9)
 2否定 69.2 (27)
 3不明 7.7 (3)
- 質問7. 希望 不満
 1学会誌の内容 25.6 (10) 41.0 (16)
 2研究発表会 17.9 (7) 28.2 (11)
 3講演会・研究部会 35.9 (14) 10.3 (4)
 4国際交流 7.7 (3) 5.1 (2)
 5表彰活動 5.1 (2) 2.6 (1)
 6その他 5.1 (2) 7.7 (3)
- 質問8. 1肯定 64.1% (25)
 2否定 12.8 (5)
 3不明 23.1 (9)